

分野別部会における委員発言要旨

- ・ 総合調整部会 第 1 回… P 1
- ・ 安心部会 第 1 回… P 4
第 2 回… P 7
- ・ 活力部会 第 1 回… P 10
第 2 回… P 12
- ・ 発展部会 第 1 回… P 15
第 2 回… P 17

「安心・活力・発展プラン2005」 第1回総合調整部会 委員発言要旨

日時:平成26年8月6日(水)15:00~17:00

場所:オアシスタワーホテル「孔雀の間」

No.	項目	発言要旨
1	子育て支援	人口減少の点で、まずは女性が仕事と育児を両立できることが大切。
2		地域での孤立が進んでいるので、子育てに限らず家庭にまで入って支援できるような支援のあり方が必要。子育て支援では、子どもの数を支えるだけでなく質を支える施策が重要。
3		来年からの子育て3法は、各地方自治体が法案を作ることになる。地域で子育てに関する意見として、もっと世界に羽ばたけるような子どもを育てるようにしようという感覚がないので、この法案の組み方、考え方には県の指導が必要。
4	子育て支援教育	赤ちゃんを抱っこすらしたことがない方々が母親、父親になっているので、全ての中学校で思春期の赤ちゃんふれあい体験と性教育を実施してほしい。魅力というのは、温泉のような観光資源だけでなく、素晴らしい人、素晴らしい教育が受けられるなどもある。
5	障がい者支援	小学校以上では、障がいのある子どもに対して対応できる体制が整っているが、保育園では障がい者向けの体制は整っていない。
6	女性の活躍	子育ての職場環境の改善については行政だけでは難しい面もあるので、そこは企業に頑張ってもらわなければならない。近道は家庭責任を背負った女性が役員や管理職にたくさんなることではないか。
7		女性の仕事と生活をいかに両立させるかということは、しっかりと取り組むべき課題。
8		様々な事情により、やむなく途中で退職した女性等がもう1度働ける場を作る制度をしっかりと作ることは、知識や経験を活かすことができ、企業にも有益。そのような仕組み作りは、企業側にも経営者の決断次第で取り組むことができる余地はあるのではないかと。
9		女性の登用、活用のための様々な施策、思いが県内企業、特に経営者の頭にあるのかということ踏まえて企業側にも訴えていけばもっと女性の活躍の場が広がるのではないかと。
10	農林水産業	大分県食材の売り込みを知事トップセールスにより大阪等で行っているが、アンテナショップを通じて売り込むことで販路拡大に繋がる。
11	商工業	大分県は、大企業0.1%、中小企業12.8%、小規模企業87.1%であり、地場産業が99.9%を占める。地元の企業が頑張らなければ県経済に活力は生まれない。
12		人口減少の中で、今後、中小、零細企業などは後継者不足による事業承継が困難になる。特に伝統産業などは小さな企業が担っていることが多いため、新産業の創出も大事であるが、一方で後継者不足に悩む企業の救済もセットで対応できる施策も必要ではないかと。

13	雇用・就労	県内高卒者の3年以内の離職率が35.8%である。この離職した35%の方々は新たな仕事を求めて県外へ出て行くことにもなりかねないので、就職の際のセッティングとその後のフォローをもう少し工夫して、働く環境づくりを支援していく体制が大事。
14	人材育成	理系人材が育たなければものづくり産業は厳しい。人材育成のためには、産学官の連携が必要。1企業の取組では難しいため、行政が学校と企業のマッチングを行うなど、企業の出番を作れば役に立てることもあるのではないかと。
15	農林水産業 商工業 ツーリズム	東九州自動車道の開通により、商圈の崩壊、大競争時代を迎える。経済効果が3兆9千億円と言われているので、これを享受するためには、良い物は外に出し、良い情報は発信し続けることが経済の原理からも活力源になる。
16	ツーリズム	外国の方が観光で温泉に来られた際、とても喜んで頂けるが、もう一度来たくなるようになるようなPRが足りないと言われている。外国の方がリピーターになって頂けるようなPR、キャッチフレーズが必要。
17	地域づくり	人口減少は経済界でも重要な問題。人口減少問題を解決するには、地域振興と両面の施策が必要。各地の強みや宝を活かすことが地域振興策において重要。
18		アーティストが地域で展示場、お店、工房を結ぶようなスモールビジネス的なところから地域の商業を興していくことが人口減少対策にも繋がるのではないかと。
19	移住・定住促進	定年を迎えた団塊の世代の「ふるさと回帰」ができないか。そのためにはふるさとに将来の希望が持てるかどうかである。
20		女性が大分に行きたいと思えるような場所にするためには、女性が活躍できるような風土を作ることも大事。アートも強みになる。若年女性、団塊女性に絞って大分の魅力を開拓していくことも人口減少対策の1つとして重要ではないかと。
21	海外戦略	中国や東南アジア等に売り込むことも大事。マレーシアやインドネシアには富裕層が多く、そういった方は「安心・安全」な食材を求めるためすぐに売れると思う。
22	教育	大分県はアジアの教育の中心地になれる可能性を秘めている。大分県で保育士や幼稚園教諭の資格を取り、アジア・世界で活躍できるようになればよい。
23		子ども達に日本、大分の伝統文化のすばらしさをもっと継続的に伝えていくことにより、大分の芸術文化環境が素晴らしいということをもっと思ってくれることが重要。
24		APUにアジア地域全般を見据えた教職員を養成するための講座を開設してほしい。様々な人材が集まるAPUから英語教員や幼稚園教諭が生まれ、その方々が大分で働き、家族を作れば大分県の人口も増えるのではないかと。

25	芸術文化	芸術文化について、大人がいきなり芸術文化に触れたことにより芸術への素養が生まれるわけではないので、幼児期から芸術に親しみを持つことが必要。そのためには、芸術文化短期大学で、保育士や幼稚園教諭向けの音楽や美術の講座を開設することも必要ではないか。
26		芸術祭なども有名なアーティストを招いて開催するのではなく、まず移住・定住しているアーティストたちで開催し、それに共感した県外、海外のアーティストが自ら足を運んでもらうような戦略も大事。
27		県立美術館は完成当初は多くの来館者があると思うが、5年後、10年後まで続くためには、県内に住む我々がどう関わり、どう支えていくかということが重要。
28	交通	大分は九州の東の玄関口である。九州横断道路も磨けばもっと光る。また、四国、関西を繋ぐ航路があるので、これをもう一度ブラッシュアップする必要がある。ここは我々の強みであり、宝。

「安心・活力・発展プラン2005」 第1回安心部会 委員発言要旨

日時：平成26年7月1日(火)13:00～15:00
場所：トキハ会館5階「カトレア」

No.	項目	発言要旨
1	子育て支援	子育て支援施策について、高齢者支援よりも少し取組が弱いのではないかと。地域の子どもや家庭に対する支援をもっと充実させる必要がある。
2	子育て支援	周囲が家庭に問題があると認識していても、今の体制では交番や民生委員が家庭に入ることができない。かゆい所に手が届いていない。
3	子育て支援	子育て支援には、きめ細やかに個別支援を行う視点が重要。母親に提供するサービスの選択肢をたくさん用意すると共に、母親と事業、さらに地域をつなぐような仕組みを構築する必要がある。
4	子育て支援	地域には子育ての手伝いをしたいという人が沢山いる。このような人をうまく活用できるような、地域力の底上げも必要。「女性の働く場」「子どもをあずける場」「急なときの対応」の3つともえの支援が必要であり、制度で足りない部分を支えるのが「地域の力」(元保育士、元看護師等)
5	子育て支援	子育てとはこういうものだ、という先入観をもたないこと。多様なニーズがある。難しいとは思いますが、支援の面でもたくさんの選択肢がほしい。
6	子育て支援	子育て支援、女性支援を行うに当たっては、30代～40代の独身男性が結婚・子育てについてどう思っているか調査してほしい。女性の意識と相当ギャップがあるはず。
7	子育て支援	勤務時間が不規則な女性は、どうしても保育園には頼れない。そのような女性と、子育てを支援してくれる高齢者をマッチングさせるとうまくいくのではないかと。
8	高齢者対策	山間地の農林業支援、子育て支援、教育支援などの分野で、高齢者に現役世代として働いてもらうことが必要。サロンには出ていかないが、現役的な働き場には出ていく。
9	高齢者対策	各地域の高齢者からは「することがない」という声をよく聞く。生涯現役という仕組みを政策誘導で作っていかないと、これからの高齢化社会を乗り切れない。
10	高齢者対策	悪徳商法の横行、孤独な高齢者、受診難民や買物難民等、高齢者をとりまく環境は年々悪くなっているように感じる。
11	高齢者対策	地域包括ケアシステムについて、市町村格差を作ってはいけないが、市町村を競争させ、最低レベルの格差を作らせて取組を促していくことも県の役割ではないかと。
12	高齢者対策	「高齢者を高齢者が支える」、「高齢者と若者が共同で高齢者を支える」という視点がこれまで乏しかったのではないかと。

No.	項目	発言要旨
13	障がい者支援	障がい者雇用で、今後特に力を入れてほしいのは場所の提供、機会の提供。県庁舎や振興局を折々解放してもらって、野菜の朝市や、作ったものを販売させてほしい。また、イベントがあるときに出店させてもらったり、椅子出し等の仕事を発注してもらいたい。
14	医療	精神科救急・医療についてはもう一段の取組を。特に認知症疾患対策。
15	医療	平成27年度から地域医療ビジョン策定が開始されるが、人口が減少している地域の医療機能を一律に削減することのないようにしてほしい。
16	環境	県民アンケートでも、「暮らしやすさの重要項目」として、「海・山などの豊かな自然環境」がトップとなっている。豊後大野、姫島がジオパークに認定されたが、もっと自然環境を大切にしていけることが求められているのではないかな。
17	環境	生物多様性戦略は、豊後大野市のみ作成予定で、その他の市町村は作成予定すらない。県の意気込みが市町村に伝わっていないのではないかな。
18	環境	ごみゼロおおいた作戦はすばらしかったが、次の段階として、海洋や大気、源流対策等、もう少し広い視野で考えるプランがほしい。
19	環境	大分県では各家庭でのCO2排出削減の取組が行われているが、こうした地道な取組を続けてほしい。
20	女性の活躍	県民アンケート調査は、働く女性の意識を正しく反映しているか疑問。働く女性にターゲットを絞った調査を改めて行うべきでは。
21	小規模集落対策	小規模集落対策、特に買い物弱者対策が重要。買い物ができないというのは集落のコミュニケーションの場がないということ。
22	地域づくり	地域のオピニオンリーダーの育成にもっと力を入れてほしい。
23	地域づくり	世界農業遺産を長期的な視野で環境づくり、地域づくり等に活用してほしい。食が元気になれば、農業も地域も元気になるため、地域の食文化の発信をしていきたい。また、食育についても長期的な視野を持って取り組んで欲しい。
24	地域づくり	中山間地域等直接支払制度について、例えば移住してきた農業をやりたい若者に、集落の面倒も見てもらう代わりに金銭的援助を行う等、人づくりに着目した制度の活用も考えられる。
25	災害対策	災害に強い県土という部分では、ハード面で解決というだけではなく、ソフト面での取組、地域のつながりやコミュニティを強くすることも大事なのではないかな。

No.	項目	発言要旨
26	災害対策	災害時の交通対策について、車を使ってはいけないとよく言われるが、高齢者のいる世帯や福祉施設等ではそうはいかない。交通対策についてのガイドラインを作らないと大混乱になる。
27	雇用・就労	高齢者の就労支援が重要。退職すると自分の居場所がなくなる。雇用形態、業務内容を変えて働きやすい環境を整え、60歳、65歳を超えても継続雇用できるようにするといいいのではないか。
28	雇用・就労	お互いを支え合うような職場づくりが必要。子どもの急な発熱や親の介護等が生じて、同僚に気兼ねなく休みがとれる職場環境が整備されるべき。
29	雇用・就労	若者の低賃金が問題。賃金が安いのに子どもを2人、3人産みましょうよ、と言っても無理。労働・賃金制度をしっかりと考えないと人口は減少しつづける。
30	雇用・就労	働き方の変革が必要。長時間であると厳しいけれども、短時間就業であれば働けるという人たちもたくさんいる。ワークシェアリング等の取組を進めるべき。
31	雇用・就労	ワークシェアリングも良いが、非正規雇用が増えるのは問題。
32	教育	男女共同参画社会や性差別について、学校教育を充実させる必要があると思う。
33	教育	いかに生きていくかや、人に奉仕することの喜びを教育することが大事ではないか。ボランティアの増加にもつながる。
34	高齢者対策 障害者支援	大分県は高齢者美術が盛んであり、発達障がい者の美術レベルも高い。心の癒やしとしての芸術という観点について、県立美術館において配慮いただきたい。

「安心・活力・発展プラン2005」 第2回安心部会 委員発言要旨

日時:平成26年10月6日(月)15:00~17:00

トキハ会館5階「ローズ」

No.	項目	発言要旨
1	福祉一般	福祉に対する市町村の力には格差がある。底上げをするための県の支援、調整がますます必要。
2	出会い応援	出会う場があるだけでは足りない。声をかける人、場につないであげる人が必要。
3	子育て支援	子育ての項目に「働く女性の支援」というキーワードが必要ではないか。
4		子育て支援策について、市町村間で格差、温度差があるので、県からも市町村へ助言、指導してほしい。
5		20歳で子どもを産むのと35歳で子どもを産むのとではどうしても違いがある。子育て支援策に母体の安全に関する教育を入れるべきではないか。
6	ひとり親支援	ひとり親家庭、とりわけ母子家庭の貧困対策について、仕事の斡旋まで含めて政策を考えるべき。
7		母子家庭の就労支援について、福祉保健部と商工労働部が連携しながら、しっかりと就労につながる仕組みを構築していくことが重要。
8		ひとり親家庭はワークライフバランスが整わない。延長保育への助成や子育ての困り事を相談できる場所づくりが必要なのではないか。
9	貧困対策	格差拡大、貧困の連鎖の防止という視点も今後は重要。
10	高齢者支援	認知症介護を経験した人が認知症介護で悩む家庭を訪問する等、高齢者を介護する方への充実してほしい。
11		自分の親が認知症になった時に相談する所がない。専門家につなげるようなコールセンターを作ってはどうか。
12		世間に名の知れた企業が悪質商法を行っている。アイネスにもう一段の努力を、商工労働部には企業側への指導の強化をお願いしたい。

No.	項目	発言要旨
13	高齢者の活躍	防犯パトロールに加わりたいという高齢者が、どこに相談したら良いかわからないという声を聞く。高齢者の活用にもっと取り組んでほしい。
14		健康寿命を延伸させるには、高齢者に人材が不足している福祉分野で活躍してもらえば良い。そのためにアナログで情報を伝えていくことも大切。
15	障がい者支援	触法障害者支援について触れるべき。
16	医療	「精神科医療体制の充実」という漠然とした言葉ではなく、「精神科救急と長期入院の是正」を明確に入れてほしい。
17	環境	環境と農業と食育とツーリズムについて、それぞれの施策は入っているが、連携した姿が見えない。次回部会には連携策を示してほしい。
18		大分県はバイオマス発電を行いやすい地域であり、そのためには森林の育成が大事。
19	食育	食育については、生活環境部・福祉保健部・教育委員会が連携して取り組んでほしい、
20	人権	不登校の子どもたちが集まるような団体に土地は譲渡できないと地主から言われた。これは人権の問題だと思う。
21	多様性	「心豊かに暮らせるためには」の論点「価値観の多様化への対応」はやや消極的ではないか。「多様性の創造と寛容性の醸成」というように、寛容な風土の醸成と社会的包摂の理念を打ち出した方が良いのではないか。
22	女性の活躍	子育てや介護と両立する職場づくりには、行政や企業等の役員・管理職の女性比率を高めることが早道。
23	集落対策	キーワードから買物弱者対策が漏れているのではないか。
24	地域づくり	障害のある人が担い手不足の農業を支える、高齢者が子育てを支えるなど、すべての県民に居場所と出番のある地域づくりが大切。
25		バスやタクシーの代替ではなく、自家用車の代替機能を果たす、有償ボランティアによる移動支援を推進することが必要。
26		地域おこしに頑張っている学生等の姿を情報発信することが、地域で頑張りたいという人が動き出すきっかけになるのではないか。

No.	項目	発言要旨
27	若者支援	高齢者だけでなく若年層においても仕事の場を確保するという視点も盛り込んでほしい。
28	外国人労働者	外国人労働者については、労働力としてではなく、外国人住民の意識を持って、彼らが地域社会で孤立しないように必要な支援をしないと、禍根を残すことになる。
29	アート	引きこもりの方や社会的に不適合となっている子どもたちに対するアートの活用も検討してほしい。

「安心・活力・発展プラン2005」 第1回活力部会 委員発言要旨

日時:平成26年7月11日(金)10:00~12:00

場所:トキハ会館5階「カトレア」

No.	項目	発言要旨
1	農林水産業	トマトのブランド化により、1億円をそのブランド商品が占めるようになった。県外にも多く出荷している。ブランド化だけで売れるわけではないが、ブランド化には非常に大きな功績があったと思っている。
2	農林水産業	園芸用ハウスのリース事業は現在大分県農業農村振興公社が事業実施主体でしてくれているが、本来は農協がしてくれるといい。指導はできないか。
3	農林水産業 海外戦略	トマトの海外輸出はこれから考えていかなければならない。
4	農林水産業	かぼすヒラメ、かぼすブリなど県外に発信しているが、地域の業界にも地産地消の情報を教えてほしい。どこにいけば手に入るのか、我々旅館も使えるのか、流通はどうか、などを教えてほしい。
5	農林水産業	かぼすブリなどを出しているお店の宣伝や、どこで食べられるのか、などの情報発信をして、アクセスしやすい状態にしてはどうか。
6	農林水産業	担い手への優良農地の斡旋が必要と思う。早い段階で仕組み作りを。
7	農林水産業	就農学校の取組は県内各地で始まり卒業生が就農していつているが、まだまだ少ない。もっとスピードを上げて新規就農者を確保していかないと、今の人口減少社会では担い手の確保が追いつかないのではないか。
8	農林水産業	農業でも一定規模になると雇用が必要。働ける人口の少なくなった農村部が活力を取り戻すためには、一緒に働いてくれる外国人労働者、実習生の力を利用していかなければならないと思う。
9	農林水産業 商工業	新たに起業しようとする人は機械が欲しくても値段が高くて買えない。水産研究部の施設は古く、稼働率も低いように思える。設備、場所を提供してほしい。小さな産業を大事にしてもらいたい。
10	商工業	事業をするときに大分の産業をうまく使うような仕組み、もしなければせめて国内のものを使うといった施策ができないか。
11	商工業	人材のマッチングは難しいと思うが、どこでも人材が足りないと聞いている。働く環境や賃金の問題も含め、事業としてうまく作り出していくという意識が必要ではないか。Iターン・Uターンのためにも、賃金の問題は考えていく必要がある。
12	商工業	企業の経営者がもう一つ上の段階を目指す時の教育・経験が足りない。大分は1億円以下の会社が多い。1億円、3億円になれるような経営者向けの教育支援はできないか。

13	商工業	県内の人を採用した企業にメリットがあるような施策を組んでもらえないか。
14	商工業	県内には優秀な人材はいるが、マネジメントができる人、管理者になれる人が少ない。人に指示できたり、物事を的確に整理するという能力を教育できないか。
15	商工業	外国人労働者の受入れについて、今はハードルが高い。専門的知識を持っていて、日本人よりも優秀な人にしかビザがおりない。外国で教育を済ませた人を連れてくれるような仕組み、外国人がブルーカラーで働ける施策はないか。
16	商工業 農林水産業	佐伯はアパート・マンションの価格が高く、若い人がなかなか家から独立できない。地元の新卒者を採用した場合のメリットを付加するというのはいい案。就業後3年を目安にして、支援ができないか。
17	ツーリズム	旅は個人化、少人数になる傾向にあり、滞在型になっている。目的・テーマを持っている人が多く、高級志向が増えている。これからはひとつの拠点をもって、そこから面的に広げていくスタイル、アクティビティコースを充実させることが大切なのではないか。
18	ツーリズム	湯布院から別府はすごく遠いイメージを持っているが、実は30～40分で行けるとかは意外と知られていない。このあたりのところを、関西方面へのプロモーションとしてどう情報発信するかを検討していくべき。
19	ツーリズム	女性とアクティブシニアをターゲットにしたコース作りをしてみてもどうか。出雲大社縁結びのようなパワースポットは大分にも一杯ある。うまく伝えていって地域に呼び寄せてはどうか。
20	ツーリズム	地産地消は魅力。地元の食材を使った料理、地元のお酒、麦焼酎。おんせん県おおいたのウィーク、マンスリーとかを作って、大分みんなと一緒に稼ぐ、というのはどうか。パワーを集中させて情報発信していく。
21	ツーリズム 地域づくり	2次交通について、別府には一日乗り放題のぐるすば号(路線バス)がある。平成23年にスタートし25年で乗客が2倍になった。乗り合いバスで2倍というのは奇跡的。国東や県南ともつなぐことができないか。路線バスを使って活性化というのもポイントになる。
22	医療	県外から大分県に来て不安を感じたことは医療。救命救急センターやドクターヘリなど、もう少し安心できるような医療体制を整備して欲しい。
23	食育 農林水産業	大分県の食材にはいいものが多いが、料理そのもののレベルが高いとはいえない。レストランなどでの新しいメニューの開発、県産のものを使ったものなど、メニュー開発の奨励や支援をしてはどうか。
24	食育	企業向けの福利厚生として、メニューを考えている。健康に気をつけた食事をしましょうというセミナーや社食のメニューを考える、など。一般のレストランでも健康メニューを置いているところを支援してはどうか。県の野菜や魚、肉とかを使っているところと協力してみてもどうか。
25	人権	女性の活用について、自由な時間に働くというのは大切だが、責任ある地位で働くという意味でも女性の活用も考えていく必要があるのでは。女性の方にも意識が足りない。自分の人生のやりがい、生きがいとしてきちんと職業を持つ、きちんと社会に参画していくことが大事。

「安心・活力・発展プラン2005」 第2回活力部会 委員発言要旨

日時：平成26年10月14日（火）10:00～12:00

場所：トキハ会館5階「ローズ」

No.	項目	発言要旨
1	農林水産業	・ある程度の規模がなければ後継者は生まれない。最低50頭規模以上の経営体を育成してもらいたい。そのために、リース畜舎は取り組みやすい形であるので、進めて欲しい。
2		・大手スーパーで大分の食材を大々的に売り込む話があったが、産地との調整で頓挫したと聞いている。県がタイアップするとか、卸業者を含めて団結して取り組めば、やれるのではないかな。
3		・スーパーに直販のコーナーがあるのは非常に良い。スーパーと直販がうまく機能している。もっとうまくやっていると、さらに地域の食材が一般の家庭レベルに伝わっていく。
4		・地産地消で県民向けにPRしてもらいたい。ブランド化で県外には頑張ってPRしてもらっているが、県民が知らないのではないかな。
5		・国は企業参入を進めているが、大分県は70%強が中山間地で条件不利地域。そういうところには企業参入は難しく、地域の農地は地域の住民が守って行かなければならない。そうすると集落営農だが、経営の実態は補助金・交付金頼み。自立できるように経営改革が必要である。
6		・農業は経営者と労働者が一緒。農業の将来を考えた場合、経営者と労働者を分離して、雇用型の農業を志向していく必要があるのではないかな。
7		・営農組織を作って農地を守って行きたいと考えている集落も多いと思うが、集落・組織を引っ張っていくリーダーがいない。
8		・県内には相当数の集落営農組織があるが、女性の組合長は一人もいない。女性の組合長、理事、役員がいても良いのでは。女性の活力の育成が必要。
9		・農業は事業継承がうまくいっていない。経験豊富な農家と新しく就農しようとする人をうまくマッチングする仕組みを作ってはどうか。良いところを受け継ぎながら、ITの活用など新しい技術も積極的に使っていくことも必要。
10		・肉用牛農家も、ある程度の規模で経営していても後継者がいないところがある。その場合は就農希望者とのマッチングが必要ではないかな。また、新規就農対策と後継者対策を一緒にやっていると、後継者対策も進むのではないかな。
11		・技術・経営管理を磨く場を積極的に作ってもらうとともに、規模に応じた研鑽のための部会を作ってほしい。経営規模に応じた部会でなければ、悩みの解決方法が出てこないのではないかな。
12	農林水産業 食育	・地元小学生に話を聞くと、地元産品であるブリの印象がかなり低い。そんなこともあり、小学生の工場見学を受け入れて、県産品のアピールを積極的にしている。学校給食でも県産魚を使ってもらっている。遠回りかもしれないが、小さい頃から教えであるとか、親しみを感じさせることで、県産品の消費につながっていくのではないかな。

No.	項目	発言要旨
13	農林水産業 ツーリズム	・地元の宿や施設が、地元の食材を使い、それを自慢しながらお客さまに召し上がっていただく活動が、足元でとても大切。食材と地元施設とのマッチングをやってもらいたい。
14	商工業 農林水産業	・食品加工分野で、食品加工された素材をいかに売っていくかが課題。味も大切だが、イメージも非常に大きい。コンテストを実施するとか、工業デザインとタイアップする形で県でイメージを作っていくとか、何か売り込む支援ができないか。
15		・研究開発チームを持ちたいが難しい。研究開発を受託する機関・組織を作ってもらえないか。いろんな分野で研究開発を受託するような組織があると、地元企業がもっと発展する可能性が広がる。
16		・地域の活性化には6次産業も必要。ただ、研修会では自己完結型の話が多い。農業者はものを作ることはプロだが、売るという能力は劣っているように思う。販売や加工にノウハウを持つ地域の食品企業と連結した取組が重要ではないか。
17		・小さい子供が、県産品に慣れ親しむ機会が増えると良い。小学校の工場見学は印象深く、親しみという意味でも、地元の企業を知るという意味でも、そういった活動がたくさん増えると良い。
18	商工業	・5年間地元の高校の新卒者を採用してきたが来年度はゼロ。少子化の波が来ている。水産加工組合は人を欲しがっているが人がいない、という状況。外国人研修生を受け入れないと、産業を継続できない。受入れ側の人へのヒアリングをして、現状を知って欲しい。
19		・メガソーラーをやっているが、九州電力の再生可能エネルギーの買い取り中断の影響は大きい。エネルギーの出口戦略や将来を見据えた戦略を考えておかなければならない。
20		・ビックデータの活用を積極的に取り組んで欲しい。活用案のコンテストのようなものを開催して、良いものは事業化するのはどうか。チャレンジして新しいサービスを開発していけるような環境ができると良い。
21		・坐来は味や場所も良く、評判が良い。ただし、物産の展示や販売がなく、情報発信が少ないのではないか。
22		・従来もやっているが、ビジネスインキュベーションセンターをもっと活用すべき。インキュベーションとベンチャーファンドの連携をもっと密接にして、技術と経営、それをバックアップする金融が一体化することによって新たな創業ができやすくなる。
23		・CSRは対外的なことばかりじゃなくて、社内でリーダーを作っていくのに非常に有効なので、取組を進めてもらいたい。
24		・ワークライフバランスの実現を妨げていることに、長時間働くことが熱心に働いている証拠だという価値観が、まだ抜けていないこともある。若い人の意識はかなり変わってきたが、上に立つ経営者や幹部の方の意識が変わらないと実現しないので、その取組が何かできないか。
25		・女性を積極的に活用するために、会社内に託児所を作りたいと思っているが、保育士を雇うとなると色々な面でハードルが高い。近所のおばあさんを雇って運営できるような規制緩和を支援してもらえないか。
26	商工業 芸術文化	・今のものづくりはデザイン性が問われる。そこにヒントがあるのでは。アートと工業を組み合わせ、工業デザインで特色を出すというのも良いのではないか。

No.	項目	発言要旨
27	商工業教育	・小さな頃からITとか理系科目に親しめるよう、小さな子供向けのプログラミングの勉強会などを増やしてほしい。
28	ツーリズム	・観光客を受け入れるにあたり、サービス業のおもてなしのレベルに差がある。サービス業の人材を育て、おもてなしのレベルを統一するために、サービス検定の実施や勉強会を開催してほしい。
29		・外国人の観光客へのケアもまだまだ進んでいない。統一してみんなで情報発信できるといいが。
30		・ツーリズム戦略ができたことで、来年のDC誘致という目標を達成できた。情報発信もでき、これからは売り込みの段階。今度は、2020年の東京オリンピックに向けて、中期的なツーリズム戦略をやっていただきたい。
31		・おんせん県おおいたの核となる別府にもっと頑張ってもらいたい。海に面している温泉地はなかなかない。東京とこちらの温度差が非常にある。自然の素晴らしさはいっぱいあるから、あるものをうまく利用してほしい。
32		・別府への観光客は減っていないが、素通りされて、宿泊客が減っているのではないか。宿泊施設はたくさんあるが、何か魅力が足りないのではないか。
33		・観光の面でおもてなしのレベルを一定以上に上げていくことが重要。一定規模の業者には県内で統一したサービスが提供できるように支援してほしい。
34	地域づくり	・人口減少下において、老朽化施設や学校、病院などインフラの再整備が必要となってくると思われるが、財政的な制約もある。PPPだとかPFIをどうやって活用していくかも観点になるのではないか。
35		・アート、農林水産品のブランド化、特産品の開発などは、金融面の施策としてクラウドファンディングがある。地域おこしでこの手法を活用してほしい。
36		・高速道路ができれば、米水津、鶴見、蒲江は忘れられるのではないかという危機感がある。シーニックバイウェイ(日本風景街道)で、国交省が広報活動を良くしてくれている。県でも忘れ去られない対策をお願いしたい。
37		・これまで集会所を作ってきたが、今度は集会所がたくさんできすぎて、その維持管理が大変。いろいろなものを作るときには、10年20年先を見据えて計画することが大事。
38		・これから取り組んでいく課題は、行政だけでは解決が難しい。民間の力や地域の人材を活用すべきだが、人材が育っていない。地域をよくするという情熱を持った地域づくりのリーダー、人材育成が急務。
39	教育	・技術者の採用に大変苦労している。UIターンに力を入れているところ。大分出身者の大分愛は強いが、帰ってくるとなると教育の問題などがあり、子供が学校を卒業してから、というような判断になる。教育レベルを上げていくことが重要。

「安心・活力・発展プラン2005」 第1回発展部会 委員発言要旨

日時:平成26年7月9日(水)10:30~12:30

場所:オアシスホテルタワー3階「紅梅の間」

No.	項目	発言要旨
1	子育て	働く時間が長くなり、くたくたになって家に帰ってきているので、子育て家庭において家庭が成り立っておらず、子育てに喜びを実感できていないと思う。
2	女性の活躍 高齢者雇用	在宅就業等により、企業を下支えする仕事を女性や高齢者が担うことができるような仕組みづくりができないか。(電子化、ペーパーレス化など)
3	ものづくり	商品(もの)は技術だけでは売れなくなってきている。商品を作り、売り切るまでの教育を徹底させることが重要。商品のブランド化だけではなく、商品が消費者の元へ着地するまでの戦略を明確にしなければならない。
4	雇用	地元企業も即戦力ばかりを求めるのではなく、新卒を採用し、根気強く人を育てるという意識を企業に植え付けることが重要。
5	人口減少	人口減少社会を見据え、地域に若者をいかにして呼び込むかが重要。
6	人口減少	大分県はこれまで企業誘致を進めてきたが、あくまでも地域に働く若者がいることが前提であると思う。これからは企業誘致だけでなくその前提として人材誘致も必要。
7	人口減少	人口減少の問題は全県的にしっかりと向き合っていくべき課題である。
8	教育	「地縁、支援、応援」という3つの「えん」という言葉がある。地域で人材を作っていくだけでなく、行政が金銭的、制度的な支援を行い、加えて外部からの応援が必要になってくる。これら3つの「えん」を繋いでローカルで活躍できる人材を育て、グローバルな世界に送り出していくことが必要。
9	幼児教育	「3つ子の魂百まで」と言うように、幼児期の教育が最も重要。まず幼稚園の3年間をしっかりと育てて小学校へ送り出さないとその先に繋がっていかない。子どもを育てるためには家庭を育てることが重要。
10	教育	大分県の教育予算は九州内でも低い方と思う。学力だけでなく子どもの情操教育を支えていけるような施策立案、予算配分をお願いしたい。
11	人材育成	子どもの就職率は上がっているが定着率はどうか。例えば県の公共工事等の入札のうち何%かを企業の人材育成費用に充てるような要件を講じるなど、あらゆる事業において「人材育成」という費目を計上してもよいのではないか。
12	教育	先生がいじめや子どもの不満について公平にものを見て解決につなげることができていないケースが多いように感じる。

No.	項目	発言要旨
13	人材育成	大学生の就職について、企業は効率化が最優先で人材を育成する時間が無い一方で大学側は実学に乏しいため、その部分を行政が間を取り持つことが必要ではないか。
14	青少年の健全育成	大分のひきこもりとニートの数がそれぞれ5千人いるということをニュースで見たが、生産年齢人口が20万人減少する中でこの1万人という数は大切だと思う。このような若者達にもう1歩踏み込んで地域に出てきていただくような施策が必要。
15	青少年の健全育成教育	学校で不登校となった生徒がそのまま卒業した場合に、そのまま関係が切れてしまうのではなく地域のサポートセンターに繋いでいくなど、不登校生徒がそのままひきこもりやニートにならないよう継続的な支援が必要。
16	青少年の健全育成教育	学校や行政、家庭だけに頼ることなく地域全体で若者たちのやり直しがきくような地域、社会づくりが必要。
17	芸術文化	クリエイティブシティ化は全ての政策に横串を刺すイメージ。クリエイティブ大分という視点を長計の柱に据えていければと考えている。
18	ツーリズム 芸術文化	県立美術館で地方の工芸作家やアーティストの作品が展示、販売されると思うが、それを契機に国東等の地方のギャラリー等にも人が流れていくような動線ができればいいと思う。
19	芸術文化教育	美術館や図書館の無償での開放や招待などによりできるだけ垣根を取り払い、美術館や図書館が近くにない子ども達等にも参加しやすいような仕組みづくりをお願いしたい。
20	芸術文化教育	県内の小学生6万人を美術館に招待する予定だが、美術館だけでなく劇場の方も併せてPRしてほしい。劇場は音響設計という工学的な要素も含めて劇場が成り立っているということも併せて子どもたちに伝えていただくと学力の向上等にも繋がると思う。
21	NPO	NPOはボランティアの位置付けとされているが、協働という立場をよく理解してほしい。企画制作という目に見えにくい部分にも予算化していただけるような配慮をしてほしい。
22	ツーリズム	東九州自動車道の開通を見据え、例えば観光についてはどう周遊ルートを確認していくかなどが重要。
23	交通政策 防災	大分空港の有効活用として、空港間の連携、広域的な人の移動というのも議論の対象になると思う。その他、南海トラフ地震を見据えたバックアップルートの確保ということも視野に入れておかないといけない。
24	情報通信	大分県は情報インフラの整備は進んでいるが、これからは利活用等ソフト面での対応が重要になってくると思う。ブロードバンド普及率もかなり進んできているが、ICTの技術を役立たせるためには、物理的に厳しい地域に普及させることが一番のポイントと思う。
25	情報通信 教育	情報技術の発展に伴うリスク、セキュリティ、情報モラル教育が重要。情報技術に依存するのではなく、自分の能力をどう拡張させるのかといった視点での教育やモラルの啓蒙がポイントになる。
26	観光 情報通信	大分が観光分野でアピールしていく上で、特に公共施設や観光施設におけるWi-Fi環境整備による利便性の向上が重要。

「安心・活力・発展プラン2005」 第2回発展部会 委員発言要旨

日時：平成26年10月10日（金）13:30～15:30

場所：トキハ会館5階「カトレア」

No.	項目	発言要旨
1	教育	子どもたちがアートに触れることでコミュニケーション能力や表現力等が身につき、学力向上など他分野にも良い影響を与える可能性がある。
2		教育者・保育者が育ち親や子供と信頼関係ができるようにならないといい教育・保育はできないが、体力的にきつい等の理由ですぐに辞めてしまうのが現状である。
3	教育 芸術文化	「おんせん県おおいた」は親しみがあり県外にもアピールできているので、「創造県おおいた」「教育県おおいた」についても、名称はキャッチーだが実施内容は真剣に取り組んでいるような工夫をして欲しい。
4	青少年の健全育成	子ども達が外遊びできるような場所がなくなってきているので、子ども達が自由に遊べる環境づくりをお願いしたい。
5	芸術文化	芸術文化については、国東半島の神仏習合や中津・竹田の城下町等大分にある潜在的な力をもっと掘り起こし、その力を発揮させていくことが必要。
6		高齢者にとってアートは生きがいにつながると思うが作品を展示・発表できる場が少ないので、芸術文化ゾーンにおいて高齢者の作品を発表できる機会をつくって欲しい。
7	NPO	県民サービスの向上等につながる提案をしたNPOに対しては、その提案が実現できるような管理、運営等の部分も含めて支援してほしい。
8	交通	国東半島を訪れた方が気持ちよくスムーズに廻れるよう、国東の山々を巡る道路の整備をしっかりとって欲しい。
9		大分に来た観光客が県内各地を周遊するためには、郊外も含めて時系列的に道路整備をする必要がある。
10	人材育成	若者版のリーダーカレッジを作ってみてはどうか。立場の違う様々な若者が集まり、地域の未来を考えていく人材を育てていくことが大事だと思う。
11	農林水産業	農林水産業を伸ばしていくためには、優秀な若手農業従事者等への教育（語学も含む）や首都圏・海外市場に出て行けるような場づくり・サポート体制が必要。
12		中間流通コスト削減の傾向があるなか、大分県の地域密着型の農林水産業が今後大きな財産となっていくのではないかと懸念している。

No.	項目	発言要旨
13	農林水産業	男女共同参画が進んでいる農林水産分野について、女性が従事することに喜びを感じ、従事しやすくなるような取組を検討して欲しい。
14	ものづくり	ものづくりの分野では、デザイン性を取り入れ付加価値を与えることにより、コスト競争から脱却できるのではないか。
15	ツーリズム	訪れてみて良い場所であれば住みたくなることに繋がっていくため、訪れたい場所の1つになるような情報発信をしていただきたい。
16		東九州自動車道の開通効果を一過性の観光客増加に終わらせることのないよう、持続可能で魅力的な地域づくりに取り組む必要がある。
17	地域づくり	地域を活性化するうえでは、地元住民も大事だが、外から人を呼び込み、交流を続けていけるかどうか重要な課題だと思う。
18	災害対策	火山や大気の監視体制や危機管理体制の状況等、大分県がいかに安全、安心であるかを対外的にもっと情報発信していくべき。